

<<阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業>> 介護サービス事業所部会【報告書】			
サービス種別	居宅介護支援事業所部会		
開催日時	令和7年6月11日(水) 13:30~15:00	開催場所	阿南市役所603・604会議室
部会代表者	山畑	報告者	山畑
議題	①居宅介護支援事業所BCP初動対応における事業所連携について ②阿南市在宅医療介護連携事業の4つの柱について取り組むべき内容の検討		

議題①	①居宅介護支援事業所BCP初動対応における事業所連携について		
検討した項目	協力できる体制づくりの提案と意見交換		
検討内容	(1)発災後の初動対応として、担当利用者の安否確認を行うが、災害時の状況によっては事業所単位での利用者の安否確認が困難となる場合も考えられる。そのため、事業所間での協力体制を整える必要がある。それらを居宅介護支援事業所BCPに組み込み、研修会等の開催も検討。 (2)個別避難計画について、手当支給に関する意見あり。体制が整っていない事業所も多い。		
結論	(1)協力可能な事業所と相談の場を設けて、協力体制を構築していく。 (2)体制が整っていない事業所も多く通常業務外での負担が予想されるため、今後の業務状況を見ながら判断。		
残された課題	災害時には、事業所間で統一した対応が必要となる。 現状、個別避難計画について事業所によって考え方が異なっているため、計画の必要性について共通認識を持てる場を設けて、災害時に取りこぼしのない支援ができるよう協力体制を整えていく。		
備考			

議題②	②阿南市在宅医療介護連携事業の4つの柱について取り組むべき内容の検討
検討した項目	<p>阿南市在宅医療介護連携事業の4つの柱について取り組むべき内容の検討</p> <p>(1)日常療養支援 (2)入退院支援 (3)緊急時の対応 (4)看取り</p>
検討内容	<p>(1)日常療養支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャドーワークが多く、代替サービス創設が望まれる。 ・地域資源(ご近所ドライブパートナー等)の情報が少なく、一覧表の作成や社会資源マップの最新版をホームページへの掲載を希望する。 ・家族が障害者であるケースのキーパーソンについて、相談先や支援強化が必要。 ・デイサービス等での人的資源の不足。入浴サービスが必要な方の時短利用や胃ろう、透析患者の受け入れ困難な事業所が多く家族の負担も大きくなっている。 <p>(2)入退院支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所や入院時の保証人の確保が難しい事例が多く、定額・無料の支援サービス創設が望まれる。 ・透析病院への通院支援に補助金制度を検討。市南部(椿泊等)や山間部での介護タクシーの利用が困難。 ・MCSツール活用促進のため、アプリ利用方法に関する勉強会を開催希望。 ・病院からの情報提供が不十分な場合もあり、連携の改善が課題。 <p>(3)緊急時の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急車利用の判断基準を再考。必要でない場合の支援方法を検討。 ・同乗後、帰宅できない事例があった。 ・救急キットのあり方について、情報が更新されてないことが多い。 <p>(4)看取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネが在宅看取りの中心となる連携体制が必要。 ・急変時の訪問看護との連携を整え、家族が安心して見送るための説明・支援について。 ・家族の体験談共有、グリーンケアの研修会を開催希望。 ・「たまたま箱」の普及と活用が不十分との指摘あり。
結論	<p>(1)日常療養支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務内で多く見られているシャドーワーク内容を把握し代替サービスを検討していく必要がある。 ・地域資源社会資源についてはお世話センターへ作成依頼を行う。 ・デイサービスの件については通所(デイ・リハ)部会へ相談し対応可能な施設をピックアップしてもいいかと思う。 <p>(2)入退院支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透析病院への通院や介護タクシーについては今後も話し合いが必要である。 <p>(3)緊急時の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急車の同乗後、帰宅できない事例があり病院関係者間での周知も必要かと思われる。 ・救急キットについても情報更新されてない場合もあるため再度見直しを行う必要がある。 <p>(4)看取り</p> <p>看取りについては家族が安心して見送るための連携体制のためにもMCSツールの活用ができるよう勉強会の開催も検討していく必要がある。</p> <p>「たまたま箱」についても活用ができるよう勉強会等の開催を検討していく。</p>
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ・代替サービスの検討のため、シャドーワークの中で頻度が多い業務の把握を行う。 ・透析の通院や介護タクシーについて今後も話し合いを行う。 ・救急時の同乗や付き添いについて、CMがどこまで対応可能か文書化や説明の場を設けることで、病院関係者や救急隊に周知していくことが必要。 ・緊急時に家族と連絡が取れるように、救急キットの内容の確認と更新を行う。 ・MCSツールや「たまたま箱」を活用するための勉強会等を開催し、知識を深める必要がある。

備考

【会議風景写真】

